

## 県内の公示地価

21日に発表された石川県内の公示地価では、金沢駅と武蔵、香林坊、片町を結ぶ「都心軸」周辺の上昇が際立った。北陸新幹線開業3年目を迎えてなお、都心軸では複数のホテルやマンションの開発が進んでおり、土地取引の活発化を背景に上昇率が前年より高まった地点もある。「ホテル完成後は周辺で飲食店の出店が期待できる(不動産業関係者)とみられ、上昇基調はまだ続くとの見方が出ている。

【一面に本記】

金沢市内の商業地では、プラス幅が拡大した地点が3カ所あった。3カ所の上昇率をみると、大手町のKKRホテル金沢付近の16・6%(前年11・6%)が最も高く、価格は1平方メートルあたり16万3千円から19万円に上がった。金沢駅兼六園口(東口)に位置する本町2丁目の14・3%(同13・2%)、香林坊2丁目の香林坊ラモータ周辺の9・2%(同8・3%)と「都心軸」が続いた。

一方、駅周辺の中橋町、本町1丁目はいずれも伸びは鈍化したものの、10%を超え、市中心部の片町2丁目の2カ所も9%台の上昇率だった。依然として高い伸び率が続く金沢駅周辺について、県宅

## 金沢駅—武蔵—片町

# 都心軸さらに上昇

## 香林坊など 3カ所 伸び率、前年超え

地建物取引業協会の吉本重昭会長は「1坪200万円を超え、土地取引があったと聞く。県外企業の拠点開設などで実需が増えている」と指摘する。金沢都ホテルの建て替えやホテル「ハイアットセントリック」の進出などを控え、代表幹事の武田昭男不動産鑑定士も「駅の近くは人気の高

まりで土地がなかなか出てこない」と話す。一方、市中心部の南町近辺では三井不動産、ユニゾホールディングス、共立メンテナンス(いずれも東京)などがホテル開発を計画し、三菱地所レジデンス(東京)が分譲マンションを建設する。ファースト・モータース(金沢市)は堅町商店街で賃

貸マンションの建設に着手する。タカラレーベン(東京)は大手町、駅西本町で分譲マンションを整備する。

「南町や片町では、ホテル用地を物色する動きがある。街の価値が継続的に高まれば、さらなる投資を呼び込む可能性がある」。金沢中心商店街まわりの協議会(5タウンズ)の小間井隆幸戦略委員は新幹線開業を契機に、

地価上昇につながる流れが続いているとの見方を示す。金沢ホテル懇話会の庄田正一会長も「宿泊施設が増えれば、人の往来も盛んになる。南町周辺の開発により、街全体の魅力は上がるだろう」と見通した。

米系不動産サービス大手のシービーアールイー(CBR E、東京)によると、昨年10〜12月期の金沢のオフィス空室率は8・3%で、調査を始めた2003年以来で最低だった。駅前には空きが少なく、中心部も改装を終えた物件から空室が減っているという。

## ホテル、マンション開発続々

伸び率が前年よりも高まった金沢市香林坊2丁目周辺

